新たなる〈地中 海〉、内的生活のあ り方を変える新たな 発見

神は私たちの大になり、り、とれたちのの心にの現りしたちののであるである。といれたちといれたちといれたちといれたちといれたちらである。聖地は、一次のとは、一次のでは、一次

2020/08/07

「新たなる〈地中海〉」

はじめに

聖人たちの生涯は、夜の帳とばりが降りたときに道を照らしてくれる光です。彼らも同じような道をたどり、神の愛という目的地に着くことができたのです――わたしたちの命の源であり、わたしたちを永遠に抱きしめようと望んでくださる神の愛という目的地に。

この本では、聖ホセマリア・エスクリバーの生涯、とくに彼がまだ若き司祭だった頃に発見したいくつかのことを中心に見ていきたいと思います。聖ホセマリアを知る多くの人た

ちが力説しているように、彼は夢中になって神を愛した人で、多くの人たちに「神の愛を深くきわめ、言葉と行いによってその愛を人々に示す」[1]よう教えました。わたしたちもキリスト者として生きる道を歩み始めたいと思います。

ところで、内へと向かって行くこの 道には、ひとつの特徴があります。 それは、すでに知っている場所から まだ知らずにいる場所へと向かって 行くものではありません、むしろ、 すでに知っていること、明らかだと 思えるようなこと、何度も聞いたこ とがあるはずのことを深めるところ にあると言うべきでしょう。そのと き、実際に知っていたことなのに、 今あらためて新たな力、新たな深み をもって感じ取ることができるよう になった、そんなことを発見するの です。聖ホセマリアはこの経験を、 思いもよらなかった仕方で目の前に 開けてきた新たなる〈地中海〉とい

う言葉を使って説明しています。た とえば『鍛』ではこう記されていま す。

「内的生活においては、人間同士の 愛と同じく辛抱が必要である。

その通り、同じテーマを繰り返し黙想し、新たに〈地中海〉を発見する、つまり何かを再発見するまで頑張らなければならない。

今までこの点をこのようにはっきり 見ることができなかったのは何故だ ろうと、あなたは驚いて尋ねること だろう。答えは簡単。私たちはしば しば石のようになって一滴もしみ込 ませず水を流してしまうからであ る。

だからこそ、神の祝福に浸されるために同じ事柄について、実は全然同じではないのだが、幾度も思い巡らす必要があるのだ」[2]。

「同じ事柄について幾度も思い巡 ら しつつ、そこにあるすべての豊 かさに心を開こうとすることによっ て、「実は全然同じではない」こと を発見する。それが、わたしたちが 招かれている観想生活の道なので す。それは海を航行するようなもの です、その海は、一見したところ何 も新しいことはなさそうです、わた したちが日々見慣れている風景だか らです。古代ローマ人は地中海のこ とをMare nostrum(われらの海)と 呼んでいました。よく知っている 海、彼らが共に生きていた海だった からです。聖ホセマリアが〈地中 海〉を発見すると言っているのは、 自分ではよく知っていると思ってい るその海に入ったとたん、思っても いなかった広大な視界が目の前に開 けてきたからです。そのときわたし たちは、シエナの聖カタリナのよう に、こう言うことができるでしょ う、「あなたは深い海のようです、 わたしが探せば探すほど見出し、見

出せば見出すほど、わたしはあなた を探し求めるのです」[3]。

これらの発見は、神が望まれるとき 望まれるような什方で与えてくださ る光にこたえるものです。一般的 に、ゆっくりと考えることによっ て、わたしたちは主からくる光を受 け入れられるようになります。「そ して、最初は暗闇のなかにいたの に、不意に自分の顔を照らす太陽を 見て、それまで見えずにいたものが はっきりと見分けられるようになっ た人のように、聖霊を受けた人は、 光に照らされた霊魂によって自分を 見出すのである| [4]。この本では、 聖ホセマリアが内的生活において発 見した〈地中海〉のいくつかを見直 すことによって、聖ホセマリアと共 に、「神の愛の深み」をきわめて行 きたいと思います。

(ルカス・ブック)

- 1] 聖ホセマリア『知識の香』97〔精 道教育促進協会、1978年、227ペー ジ〕。
- [2] 聖ホセマリア『鍛』540〔新田壮一郎訳、フェルナンド・アカソ訳監修、精道学園、1991年、135ページ〕。
- [3] シエナの聖カタリナ『対話』 167。
- [4] エルサレムの聖キュリロス『カテケーシス』16・16。

記事:

1.「神の子の最初の祈り」

あいまに <u>「十字架を担うということ</u>は、キリストとひとつになること」

2.「イエスはわたしの親しい友」

- 3. 「右の手の傷から……」
- 4. 「話さないで、聖霊の声に耳を傾けなさい」
- 5. 「マリアを通ってイエスに」

おわりに

これまで見てきたように、いくつも の新たな〈地中海〉の発見は、聖ホ セマリアの心を驚くほど大きく広げ ました。どのようにして彼は、主の 手につかまりながら、少しずつ十字 架の意味に気づいて行き、それに よって自分が愛に満ちた父なる神の 子であると感じるようになったの か。どのようにして彼は、すぐそば におられるイエスの、親しい友とし ての愛を発見し、慰め主である神の 愛に身をゆだね、自分の力よりも聖 霊を信頼することになったのか。そ してまた、どのようにして彼は、霊 的生活において、またこの地上での 働きにおいて、徐々に聖霊の導きに

従って行くようになったのかを、わ たしたちは見てきました。つまり、 聖ホセマリアは理解したのです、キ リスト者としての生活の満ちあふれ る豊かさとは、一連の務めを果たす ことでも、あるレベルに達すことで もないと。それはまた、「特別な事 業を成し遂げることでもありませ ん。むしろそれは、キリストと一つ に結ばれることです。キリストの神 秘を生きることです。キリストの生 き方、考え方、熊度を自分のものと することです。聖性の度合いは、キ リストがわたしたちのうちで達する 背丈によって決まります。聖霊の力 で、わたしたちがどれだけキリスト の生き方に基づいて自分の生き方を 形づくるかによって決まります l ¹。

聖ホセマリアの歩みに従って、わたしたちもまた神に願うことができるのです、これら内的生活の〈地中海〉に、よく知られていて……かつ広大な風景に、わたしたちを導き入

れてくださいと。そうすればわたしたちは、「神の愛を深くきわめ、言葉と行いによってその愛を人々に示す」²ことができるようになるのです。この道ほど、急いで行くべき道……また美しい道は、ほかにないでしょう。

1 ベネディクト十六世、一般謁見、 2011年4月13日 [教皇ベネディクト 十六世『女性の神秘家・教会博士』 カトリック中央協議会司教協議会 秘 書室研究企画編訳、カトリック中央 協議会、ペトロ文庫、2011年、235 ページ。なお、文脈に合わせて訳文 を微調整した]。

2 『知識の香』97 [前掲邦訳、227 ページ]。 pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/aratanaru-chichukai-0/(2025/12/17)